

東京大学

【N022 東京大学】

	東京大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:280） 大学院理学系研究科（M:418 D:215） 大学院数理科学研究科（M:53 D:32） 地震研究所 大気海洋研究所 宇宙線研究所 素粒子物理国際研究センター 海洋基礎生物学研究推進センター
沿 革	明治10（1877）年 東京大学理学部設置 明治19（1886）年 帝国大学設置及び大学院開設 明治25（1892）年 文部省内震災予防調査会設置 明治30（1897）年 東京帝国大学へ改称 大正14（1925）年 地震研究所設置 昭和24（1949）年 新制東京大学理学部設置 昭和28（1953）年 大学院数物系研究科、化学系研究科、生物系研究科、 宇宙線観測所設置 昭和37（1962）年 海洋研究所設置 昭和40（1965）年 大学院数物系研究科、化学系研究科、生物系研究科を 改組し、大学院理学系研究科を設置 昭和51（1976）年 宇宙線研究所設置 平成3（1991）年 気候システム研究センター設置 平成4（1992）年 大学院数理科学研究科設置 平成6（1994）年 素粒子物理国際研究センター設置 平成21（2009）年 海洋基礎生物学研究推進センター設置 平成22（2010）年 海洋研究所と気候システム研究センターの統合により、 大気海洋研究所設置。地震研究所、大気海洋研究所、 宇宙線研究所、素粒子物理国際研究センター、海洋基 礎生物学研究推進センターが共同利用・共同研究拠点 に認定
設置目的等	新制国立大学の発足時には、東京帝国大学理学部は、東京大学理学部へと承継され、次代を担う若者に理学の広範な領域にわたってその理念と方法論を教授し、未知の問題に対する解決の知恵と手段を体得

	<p>させ、人類社会の持続的発展に貢献する人材の育成を目的としている。</p> <p>昭和40年には、昭和28年に設置された新制の大学院数物系研究科、化学系研究科、生物系研究科を改組し大学院理学系研究科が設置された。大学院理学系研究科は、自然界の真理の根本的理解に向けて、知を創造し、発展させ、それを継承することを教育研究の不変の目的として定め、次代を担う学究の徒に理学の理念と方法論を教授し、未知の問題に対する解決の知恵と手段を備えた独創性豊かな国際的人材を養成することを目的としている。</p> <p>数理科学研究科は、平成4年に設置され、数学・数理科学に関する体系的な知識と高度な研究能力を修得し、数学・数理科学の諸分野において、第一線で活躍する研究者、ならびに数学・数理科学の幅広い素養と専門的な判断力を身につけ、社会の広範な領域で新しい時代を担う人材を育成し、国際的な視野に立って高度な数学・数理科学の文化を醸成して社会の発展に資することを目的としている。</p> <p>地震研究所は、大正14年に設置され、地震及び火山噴火に関する諸現象の解明とこれらに起因する災害軽減の研究を目的としている。</p> <p>大気海洋研究所は、平成22年に海洋研究所と気候システム研究センターの統合により設置され、海洋と大気の基礎的研究を推進するとともに、地球表層圏に関する科学の深化を通じた社会貢献を目的としている。</p> <p>宇宙線研究所は、昭和51年に設置され、宇宙線の観測を通じた宇宙と素粒子の研究を目的としている。</p> <p>素粒子物理国際研究センターは、平成6年に設置され、主として欧州原子核研究機構の陽子・陽子衝突型加速器による素粒子物理学に関する国際共同研究を行うことを目的としている。</p> <p>海洋基礎生物学研究推進センターは、平成21年に設置され、三崎臨海実験所を基点として、海洋生物学の共同研究を促進し、海洋生物学の先端研究、分野横断的研究、次世代開拓研究の創出及び国際連携を図ることを目的としている。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>東京大学においては、世界的な水準での学問研究の牽引力であること、あわせて公正な社会の実現、科学・技術の進歩と文化の創造に貢献する、世界的視野をもった市民的エリートが育つ場であることを目指して、教育研究等に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <p>○ 国際的な広い視野を有し、高度な専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、強靱な開拓者精神を持つとともに、公共的な責任を自ら考え、行動するタフな人間を育成することを</p>

教育目標として、人類が抱えるエネルギー、地震、環境等の多様な課題に取り組む高度な専門人材の育成の役割を充実させるとともに、自然科学を中心とする諸分野において世界に通用する第一級の専門知識及び研究能力を有する先導的な人材の育成の役割を果たしている。

- 学部では、理学の基礎的な素養を習得させるとともに大学院教育の基盤となる教育カリキュラムを編成している。講義と実験、野外調査（観測）及び演習のバランスを重視して、植物園等の多様な附属施設等を利用した実践的な教育研究を行っている。また、学生の海外派遣プログラムの実施、英語による授業の拡充等により、学生に国際的な視野を身に付けさせつつ、国際化を推進する。

大学院では、理学に関連する高度な専門性を身につけるとともに、国際会議等での研究成果の発表法等の研究者としての素養も身につける教育を実施している。また、未知の問題を解決するための思考力を涵養し、専門分野を超えて知のフロンティアを切り開く独創性豊かな国際人育成を目的とする教育プログラムを配置している。

- 幅広い研究領域と多様なフィールドにおいて、生命・地球・宇宙の起源などの自然界の真理を探求する学問や、人類が現在直面している様々な地球規模の環境・エネルギー問題など、基礎から応用研究までを視野に置いた研究を行っており、海外の教育研究機関との連携及び国際共同研究も活発である。今後とも、ノーベル賞やフィールズ賞等の受賞者を輩出するなど、理学のあらゆる分野における高い研究実績を生かし、世界トップクラスの研究を推進するとともに、関連分野と連携し、生物の多様性と生命の基本原理の教育研究拠点となることを目指しつつ、未踏研究分野の開拓に積極的に取り組む。

- 優れた研究成果を早期に社会に還元できるよう、最先端の研究を一般の方にわかりやすく説明する公開講座やシンポジウム等を開催するとともに、高校生等に対して理学の魅力を積極的に広報している。また、東日本大震災からの復興支援を継続して進め、地震予知や地震火山災害軽減に関する最先端の研究成果を社会に還元しているほか、津波後の海洋環境や生態系に関する調査・研究を実施している。

- 産業界との双方向的なプラットフォームを設置しつつ、産学連

携活動を推進し、受託研究・共同研究の受け入れや特許取得数において高い実績を挙げている。今後とも我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進する。

- 産業界や地域の高度化・活性化に寄与するよう、多くの社会人を修士・博士課程に受け入れ学位を授与しているとともに、地域の技術者等を対象とした談話会等を展開するなど、社会人の学び直しに積極的に取り組んでいる。